



開校57周年(開拓の思い)

5月1日は、田柄中学校開校57周年です。ちょうど2020年東京五輪の年に開校60周年を迎えます。沿革史をのぞいてみますと、昭和35年4月1日に練馬区高松町1-5263の練馬中学校内に設置されました。開校当時は、校舎が完成していなかったため、練馬中学校の校舎を間借りしての学習や生活でした。4月6日の開校式では、2年生が121名、3年生が68名でした。第1回入学式は(男子101名、女子83名、計184名)が入学し、全校生徒308名のスタートでした。

現在の校舎に移転したのは、昭和35年7月4日でした。開校と校舎の建設にあたり、教育委員会、地域、協賛会、PTAの皆様、教職員が力を合わせて、新しいものを切り開く「開拓」の思いで、地域の人々の熱い願いに支えられて作られた学校です。

今では練馬区立中学校で最も古い校舎(平成29年2月時点)ですが、補修や改修を繰り返しながら、生徒の皆さんが大切に美しく使い、快適に生活することができています。また、平成4年7月に現在の体育館(アリーナ・武道場)と屋上プールが完成されました。

校歌と校旗は昭和36年3月8日に制定されました。校章は3つのペンが重ねられているデザインですが、「文は武よりも強し」を意味しています。

そして、校歌の歌詞にある「開拓」「創造」「勤労」の精神も校章にこめられており、1万2千人を超える卒業生の皆さんが築いてきた歴史と伝統が在校生へ脈々と受け継がれています。

先日、ある卒業生の方から昭和35年12月21日に発行されたPTA広報誌の創刊号「たがら」を頂戴いたしました。よくぞ57年前の文書が保管されていたものです。そこには、第一期校舎の全景・体育大会の様子の写真と協賛会長様、PTA会長様の挨拶文が掲載されていました。抜粋したものをご覧ください。

貴重な資料とともに当時の様子を想像しながら開校を祝いましょう。



あいさつ(初代PTA会長様の原稿より抜粋)

待望久しき田柄中の一角にスマートな校舎が落成し、四月一日以来間借りをしてきた練馬中学校の皆さんとお別れし、新校舎に移り授業を初めてより早や三月は過ぎ去りました。

備品もどんどん整備され、校舎は元気いっぱい若鮎のような生徒で満ち満ちております。校庭もご近所の有志各位の暖かいご協力により、何年かかかって我が子のように育ててきた植木をおしげもなくご寄付くださり、校庭外側の緑化は日一日と進みつつあります。名実ともに練馬の教育のモデルケースにと進んでいます。

田柄中学校の発足にあたって(協賛会長様の原稿より抜粋)

このたび田柄、春日町地区に待望久しかった田柄中学校の開校を見ましたことは、誠によろこびにたえません。ご承知のように田柄中学校は、今春四月一日をもって、練馬中学校より分離独立いたしましたものですが、練馬中学が昭和二十二年四月一日に開校され、今日に至るまで、母体地域である五町会(田柄・春日・高松・貫井・向山)におかれましても、すぐに田柄中学校創立協賛会の設立をし、発展のために多大の協力を得ましたことは、誠に感謝にたえないところであります。お陰様をもちまして、鉄筋新校舎も落成し、燦々たる陽光のもと子供たちはのびのびと学習に運動に明るく活動しています。

昔の卒業アルバムから、校舎の歴史や学校の様子がうかがえます。



1959年（昭和34年）建築中の校舎
現在の校舎 第一期工事です。



1979年（昭和54年）職員室前校庭の様子
体育授業の始まりの整列です。



1978年（昭和53年）合唱発表会
この頃から合唱が盛んでした？



1984年（昭和59年）航空写真
体育館とプールは西側にありました。



1984年（昭和59年）体育の授業
体育館の鉄筋がむき出しで古さが感じられます。



2010年（平成22年）航空写真
体育館と屋上プールは、もちろん現在の東側です。

雑感（PTA 広報創刊号・保護欄より抜粋）

新しく生まれた田柄中のモットーは開拓精神であると聞き、親としてたいへんうれしく思っています。田柄に暮らして丸十年。当時幼稚園に通っていた子供も中学の最高学年となりましたが、朝夕美しい田園の風景と勤勉な農家の方たちの生活を目の当たりに見て育ったお陰で病気もせず、昆虫や草木が何よりも好きで自然と親しむことを楽しんでいます。雄大な自然は人間の魂を清らかにし、大きな希望を持たせてくれます。夏の暑い日に雑草を抜き、北風の中で麦踏みをする人たちの姿は本当に美しいです。私はこの土地で子供を育てることができ何物にも代えがたいものを培っていただいたと感謝しています。

待望の新校舎完成（PTA 広報創刊号・保護欄より抜粋）

薄茶色のがっしりとして、力強くモダンな近代文化の校舎が出来上がって行くのを指折り数えて一日千秋の思いで私たち親子は眺めていました。田柄中学の校風を自分たちの手で作るのだと言う希望と責任感が胸の中に一杯広がったことと思います。